

株式会社イマオコーポレーション 中濃業務内容の見直しで業務の平準化、  
時間短縮に成功

協力工場、お客様へ業務内容の改善を働きかけ

## 取り組みの背景

10年以上前から続く  
業務の効率化への姿勢

受注処理を担う業務部では10年以上前に、受注処理の電子化EDIを進め、取引代理店の専用WEBサイトを立ち上げた。その結果、今では多くの書類が電子化されている。当時から、そういった業務内容改善へ取り組む姿勢が引き継がれている。

今から2年前の2017年、商品の出荷作業を担う商品管理部では、残業慢性化の見直しに着手した。商品は、イマオコーポレーションが出荷し、その先に代理店、販売店があり、お客様へ届く。残業の主要因は、代理店に在庫がない場合にお客様へより早く届けるために、当日出荷対応が必要となることだった。

そして、この課題を解決するために、代理店に在庫不足を解消してもらわなければならなかった。代理店で在庫拡充の協力があれば、慌てて当日出荷する必要はないのだ。

代理店との交渉を始めるにあたり、在庫拡充に加え、当日出荷の注文締切時刻などのルールも見直すことにした。

## 取り組みの主な内容

代理店と課題を共有  
2段階で注文締切時刻を繰り上げ

取り組みによって、代理店との対応ルールを以下の通り2段階で変更することができた。

## 【代理店からの注文受付時間の変更】

	当日出荷 注文締切時刻	電話受付時間
2017年10月以前	15:30	8:30～18:00
2017年10月から	14:00	8:30～17:20
2018年10月から	11:00	8:30～12:00 13:00～17:20

現在は、午前11時以降の注文は、翌日までに出荷準備をすればよいということになり、受付電話対応も上記時間以外は昼休みの1時間も含めアンサーフォンに変更した。

しかし、この取り組みには苦労もあったと業務部部長の井上さんは語る。「お客様あつての商売。代理店の理解が欠かせないし、事前にご説明しながら慎重に進める必要があった」と当時を振り返る。

昨今の働き方改革などの取り組みがなければ、代理店の理解も得られなかっただろう。代理店も遅くまで働くという体制は見直したいと考えていたのだそうだ。

結果、代理店とも課題を共有することができ、在庫拡充の協力もしてもらうことができた。今まで慣習的にやっていたことを、もう一回見直して改善することが大切なのだ。

協力工場も楽になる  
“改善”の提案とその取り組み

協力工場の窓口である調達部においても、業務内容の見直しを進めている。

協力工場にお願いしている作業工程があり、2年前から、その管理を双方が見える化をして、情報を共有し、修正していく体制をとるようになった。時間のムダ、資材の



同社ホームページの「イマオ美濃工場からの改善活動記」では実際に行った改善活動の事例を紹介しています。

ロスの軽減が目的だ。

まずは、「一緒にとりあえず楽になるかどうかやってみよう」と協力工場へ提案してみるという。やってみないとわからないからだ。そして、成功したらその成功事例は他の協力工場にも提案し、新しい方法を取り入れてくれる協力先を増やしている。

## 取り組みの効果

### 残業時間の大幅短縮 一人ひとりの改善の意識が成果に繋がる

当日出荷注文締切時刻を早めて、一番効果があったのは商品管理部だった。それまでは、定時後まで当日の処理をして翌日の処理は手つかずのまま、ということが当たり前になっていた。今では残業もなくなり、翌日の出荷分の段取りもできて、余裕を持って仕事を回している。

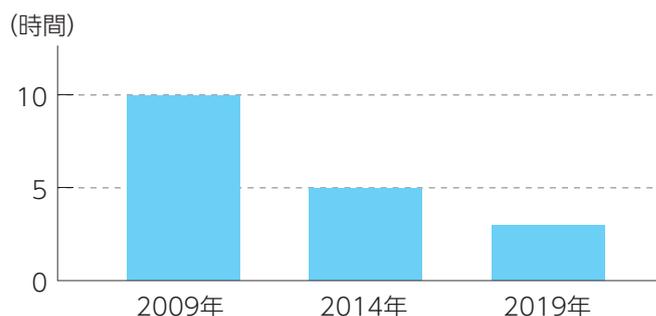
そして、商品管理部だけではなく電話対応をしていた業務部にも時間の余裕が生まれた。時間変更前は、電話対応や当日出荷の納品書発行業務のために、打ち合わせや勉強会が業務時間内にできていなかった。現在は、注文の電話が午前集中するものの、午後3時ごろには落ち着いて改善作業やミーティングなど、他の業務に当たれるようになった。

製造部門では、前述の協力工場との改善だけでなく、社内の作業者の多能工化を進めたことで、業務のローテーションを試みたり、他の人の作業をカバーすることもできるようになった。

また総務部では以前、残業が月40時間を超える長時間労働者をチェックし、1人に仕事が偏っている場合には仕事を再分配するよう指導していた。しかし、今では長時間の残業は減り、今期の指導はゼロ。社員一人ひとりが業務を平準化しなければならないという意識が根付いてきた証拠だといえる。こうした各部署での少しずつの積み重ねが、全社での残業時間の削減につながっている。

そして、現在の残業時間は月平均3時間。この一人ひとりの「改善に力を入れていこう」という意識が、各部署でのきめ細やかな改善につながり、イマオコーポレーションと協力工場に「働き方改革」をもたらしたといえる。

#### 【一人当たり月平均残業時間】



#### 企業PROFILE

### 株式会社イマオコーポレーション

住 所： 関市千疋2002  
 電 話： 0575-28-4811  
 U R L： <https://www.imao.co.jp/>  
 事業内容： 標準機械部品、標準治具、アルミ構造材、製造情報システム、ライフスタイル商品の開発・製造・販売  
 従業員数： 280人